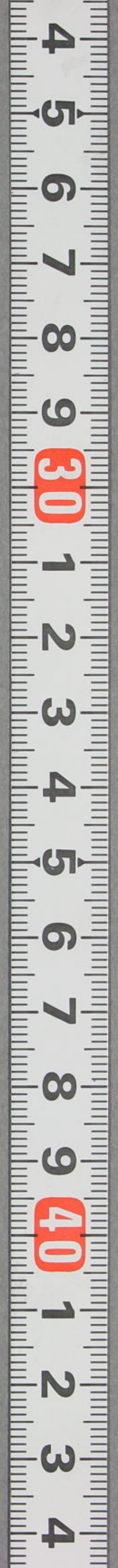


重上 忍座

上

~ 13
3387
16



13  
3387  
16

草きりし春紙うす一紙歌あそびたれど  
 たりハ紙あそびの心なきあそびなきあそびす

先草 う法一りの法

灰とぬるあてさけま  
 己紙抄出をりまふくの  
 こ通一むきをあげが  
 まづらへーとるあそ紙と  
 志紙をそれ上右の身  
 又その上へあし紙あ  
 志ありとるのせ竹の  
 さ紙をその志紙と  
 志らあそりうるあり  
 志まふあづればまふ



水書

昭和六年  
 三月廿日  
 田村君  
 長男  
 氏書贈



徳文庫五十一編序



と色州双一ハ半肉の  
 波のまきまきそ  
 後らそ  
 通草のほり  
 なる空これ  
 又四章曲十八の大陸と



舎衛の  
 檀留  
 長者  
 須菩提  
 禪室  
 祇園  
 精舎に  
 十大弟子の  
 うち一人

徳文庫

といふ世のうらみまむくちらむものをや  
 おつれどらうくおつれくしとて 休木  
 抱ひ十六身の子のちも憐れむ 法を  
 善根をばたかへてさきのおんまう ぶんを  
 結ぶひはさるるつりぬ因をん 受くる  
 軍のの推も知る通れもよ 今更  
 白根もさるるまのさの般のの 面ほ  
 さらぬか許書に様々 乃 二 縁に  
 恨ののさくつれぬ言ふ舍利 あつふ  
 来たもさるる尾よ付置んが 汁を  
 むる身のちを申さばけさる依 如 件  
 又久二年戌の枝に  
 万のりも熱も尽 田 田

六齋日  
 毎月八日十四日  
 十五日廿三日廿九日  
 卅日 小月の廿八日を  
 今して六日とす  
 十齋日  
 朔日八日十四日  
 十五日十八日廿三日  
 廿四日廿八日廿九日  
 三十日  
 此日小放生よれぬを  
 功德勝まうといふも  
 作法を知らねえつて  
 つまらぬとも文を  
 まらぬとも





このまじりくもさるちかふちを  
あんにんせ七人のうちを  
さぬさぬくまを  
あやうとせいの  
まのこのあひめ  
さるちかふちを  
あんにんせ七人のうちを  
さぬさぬくまを  
あやうとせいの  
まのこのあひめ

あんにんせ七人のうちを  
さぬさぬくまを  
あやうとせいの  
まのこのあひめ  
さるちかふちを  
あんにんせ七人のうちを  
さぬさぬくまを  
あやうとせいの  
まのこのあひめ



このまじりくもさるちかふちを  
あんにんせ七人のうちを  
さぬさぬくまを  
あやうとせいの  
まのこのあひめ

あんにんせ七人のうちを  
さぬさぬくまを  
あやうとせいの  
まのこのあひめ  
さるちかふちを  
あんにんせ七人のうちを  
さぬさぬくまを  
あやうとせいの  
まのこのあひめ

あんにんせ七人のうちを  
さぬさぬくまを  
あやうとせいの  
まのこのあひめ  
さるちかふちを  
あんにんせ七人のうちを  
さぬさぬくまを  
あやうとせいの  
まのこのあひめ



あんにんせ七人のうちを  
さぬさぬくまを  
あやうとせいの  
まのこのあひめ  
さるちかふちを  
あんにんせ七人のうちを  
さぬさぬくまを  
あやうとせいの  
まのこのあひめ

あんにんせ七人のうちを  
さぬさぬくまを  
あやうとせいの  
まのこのあひめ

あんにんせ七人のうちを  
さぬさぬくまを  
あやうとせいの  
まのこのあひめ





左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき

左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき



左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき

左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき

左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき



左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき

左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき  
 左のりておぼしきまのりておぼしき  
 右のりておぼしきまのりておぼしき

伊勢物語五十一

六







魚鳥會所



けのめいりつるきき  
あふこころいふうま  
あそびせしむいふ  
あふこころいふうま  
あそびせしむいふ  
あふこころいふうま  
あそびせしむいふ

あふこころいふうま  
あそびせしむいふ  
あふこころいふうま  
あそびせしむいふ  
あふこころいふうま  
あそびせしむいふ



あふこころいふうま  
あそびせしむいふ  
あふこころいふうま  
あそびせしむいふ  
あふこころいふうま  
あそびせしむいふ

あふこころいふうま  
あそびせしむいふ  
あふこころいふうま  
あそびせしむいふ  
あふこころいふうま  
あそびせしむいふ

魚鳥會所

魚鳥會所

# 万亭應賀作

# 歌川國貞畫



この舟に乗りてのまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は

舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は

舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は  
 舟のなかまはりの景色は

倭文庫出世双六

豊國画

春の遊將其来双六

貞房画

男女役目双六

同画

武家奉公出世双六

同画

奥奉公出世双六

同画

子寶延命袋

同画

重榮御江戸繪圖

奉書四枚半つゞ

大寶御江戸繪圖

極上摺奉書六枚半つゞ

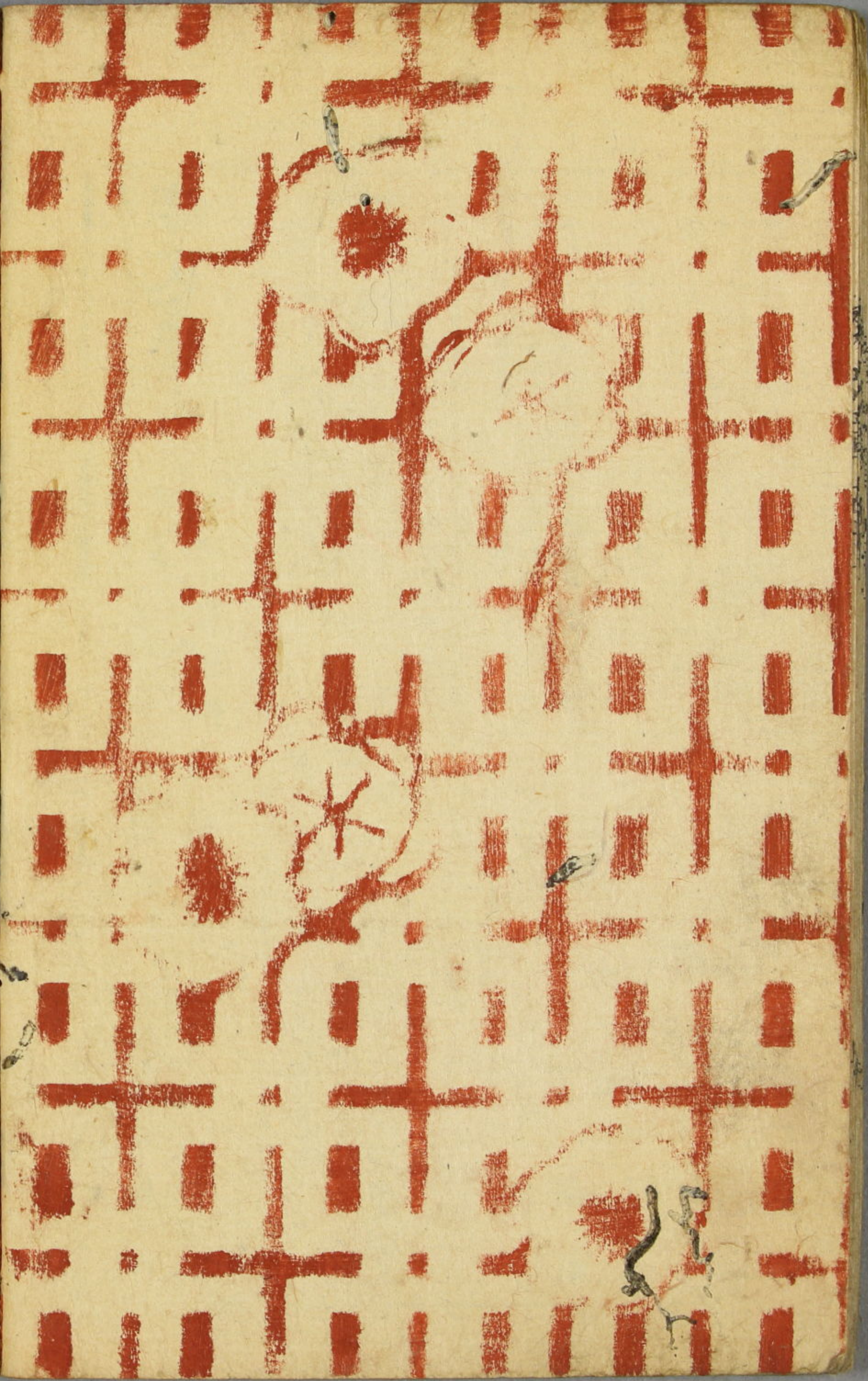
倭文庫五拾編

歌川國貞画

万亭應賀作



下



住よりの糖のまじり

住よりの浦はみる老もつまれば

かりる人もふりぬるのね

この河さの巻はよきに

ちつ美の河のこまよ

降るかとの

恒常り



若のともるはよある

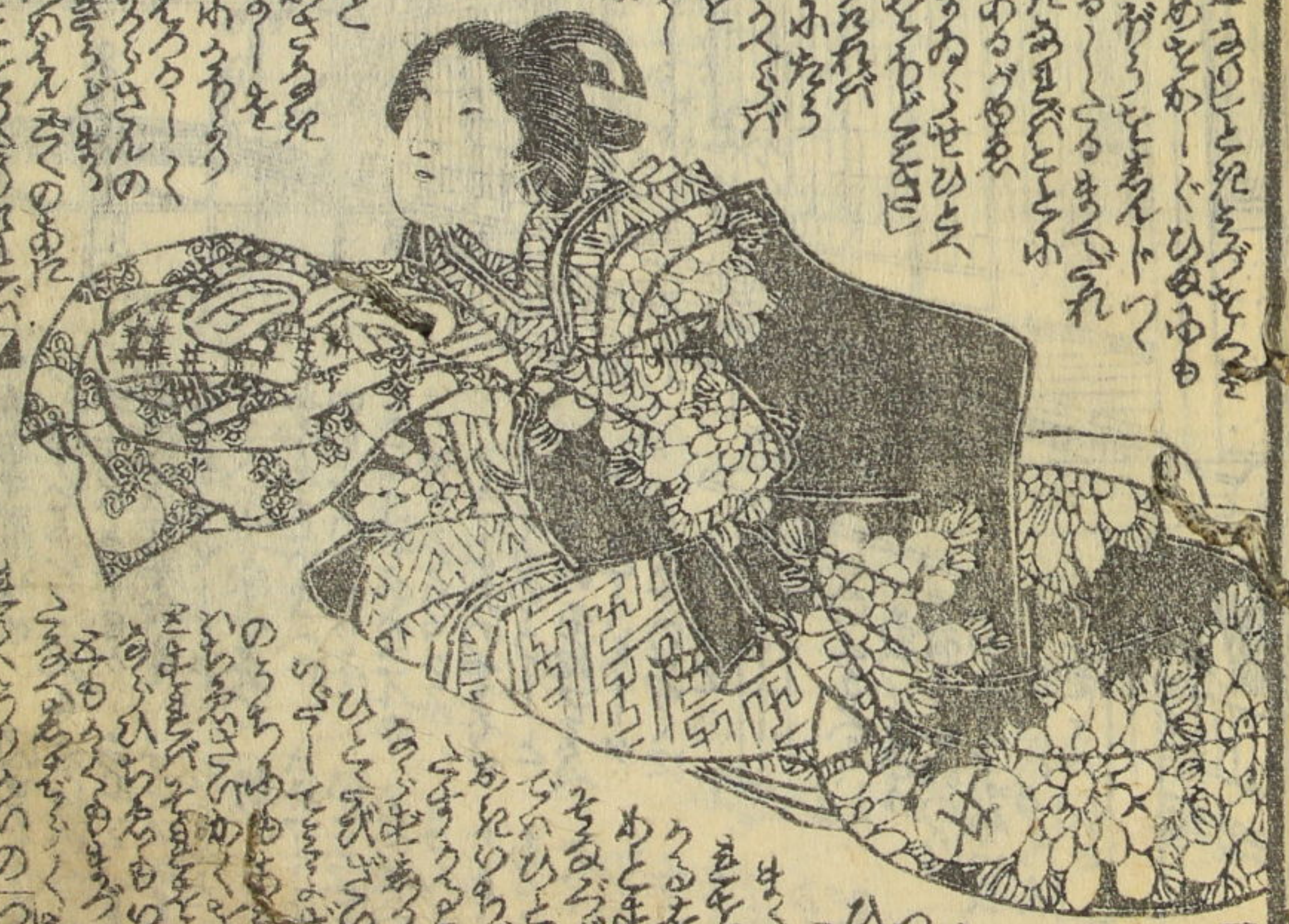
沙のうらむはのる

たはるもよこのね



つぐぬ

Handwritten text in a vertical column, likely a list or index of items, including names like 'Sakura', 'Kiku', and 'Fuyuki'.



Handwritten text at the bottom of the page, continuing the list or index from the top.









この世の事などいふ事  
もなかりけりや  
けりやあや子のいふ事  
たのしみやあや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事

あや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事

あや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事

あや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事

あや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事



あや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事

あや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事  
あや子のいふ事



三阿僧祇劫... 五百人の... 三阿僧祇劫... 五百人の... 三阿僧祇劫... 五百人の...



三阿僧祇劫... 五百人の... 三阿僧祇劫... 五百人の... 三阿僧祇劫... 五百人の...



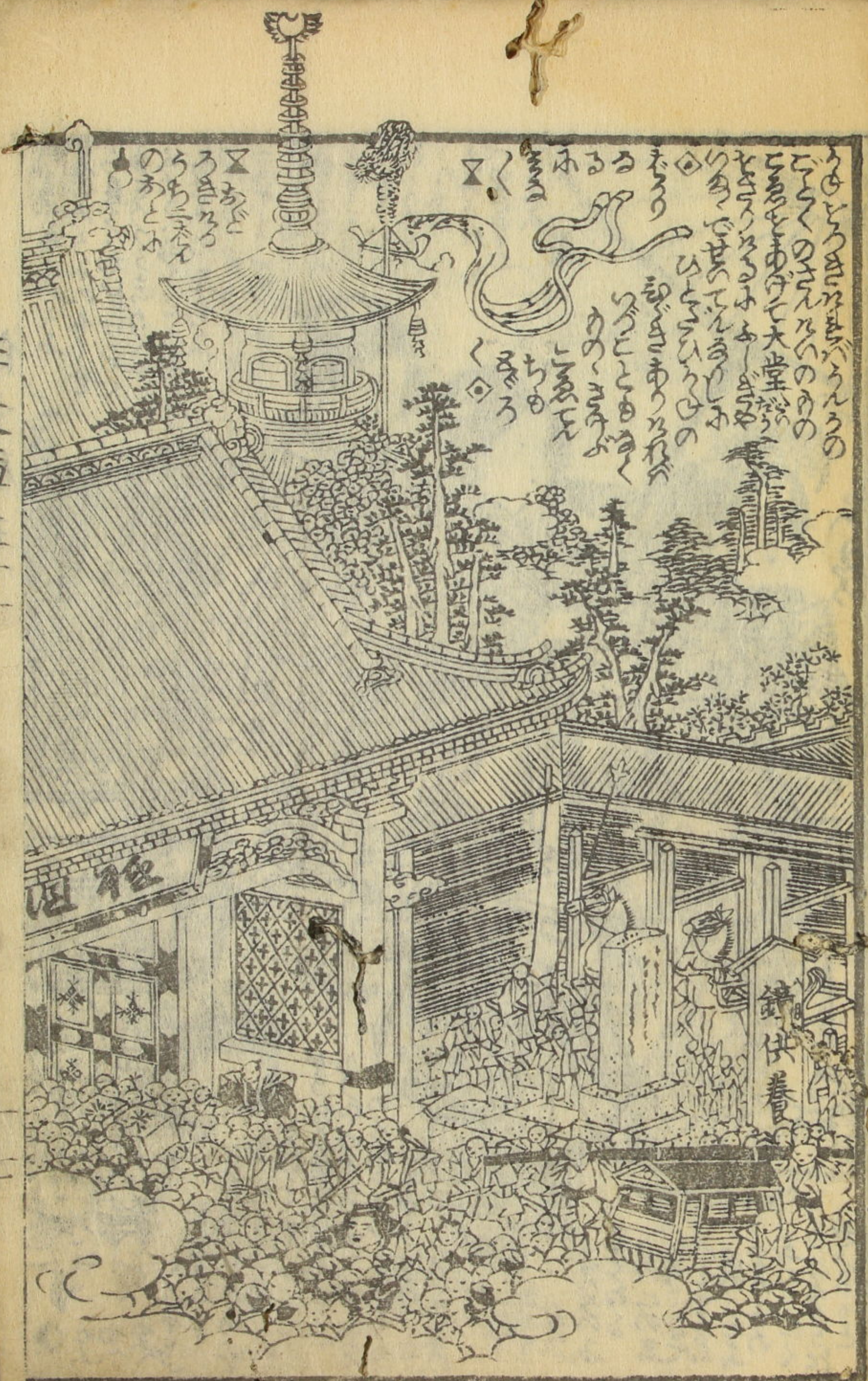
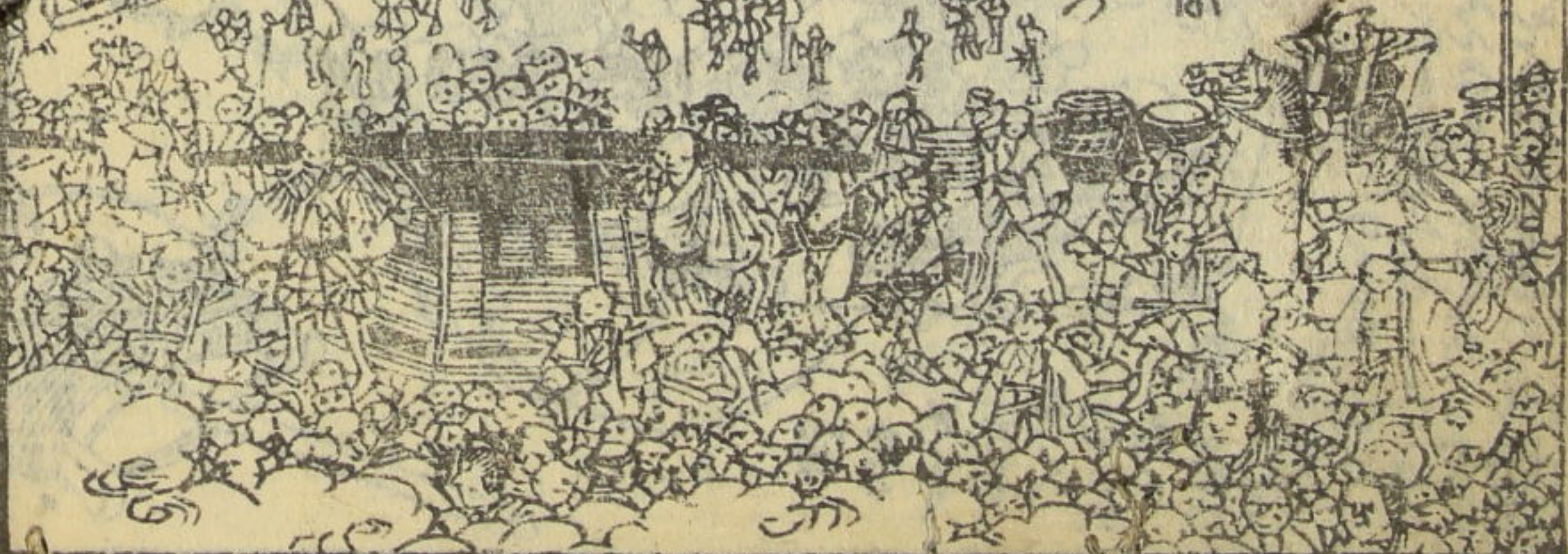
あつ... 五百... あつ... 五百... あつ... 五百...

四の鐘乃三ツの畧ス

此の鐘は... 鐘乃三ツの畧ス... 此の鐘は... 鐘乃三ツの畧ス...

此の鐘は... 鐘乃三ツの畧ス... 此の鐘は... 鐘乃三ツの畧ス...

此の鐘は... 鐘乃三ツの畧ス... 此の鐘は... 鐘乃三ツの畧ス...



此の鐘は... 鐘乃三ツの畧ス... 此の鐘は... 鐘乃三ツの畧ス...

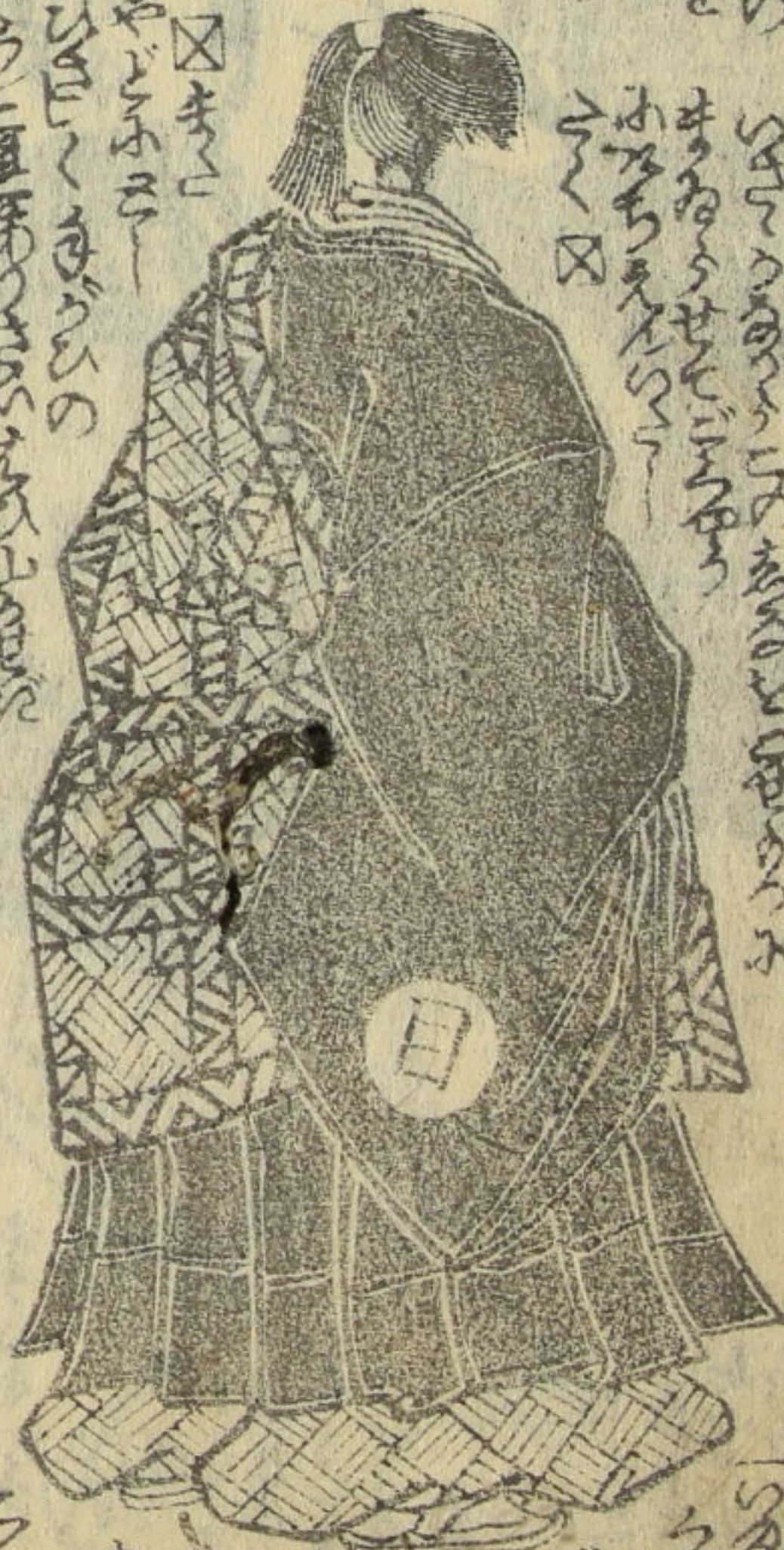
此の鐘は... 鐘乃三ツの畧ス... 此の鐘は... 鐘乃三ツの畧ス...

此の鐘は... 鐘乃三ツの畧ス... 此の鐘は... 鐘乃三ツの畧ス...

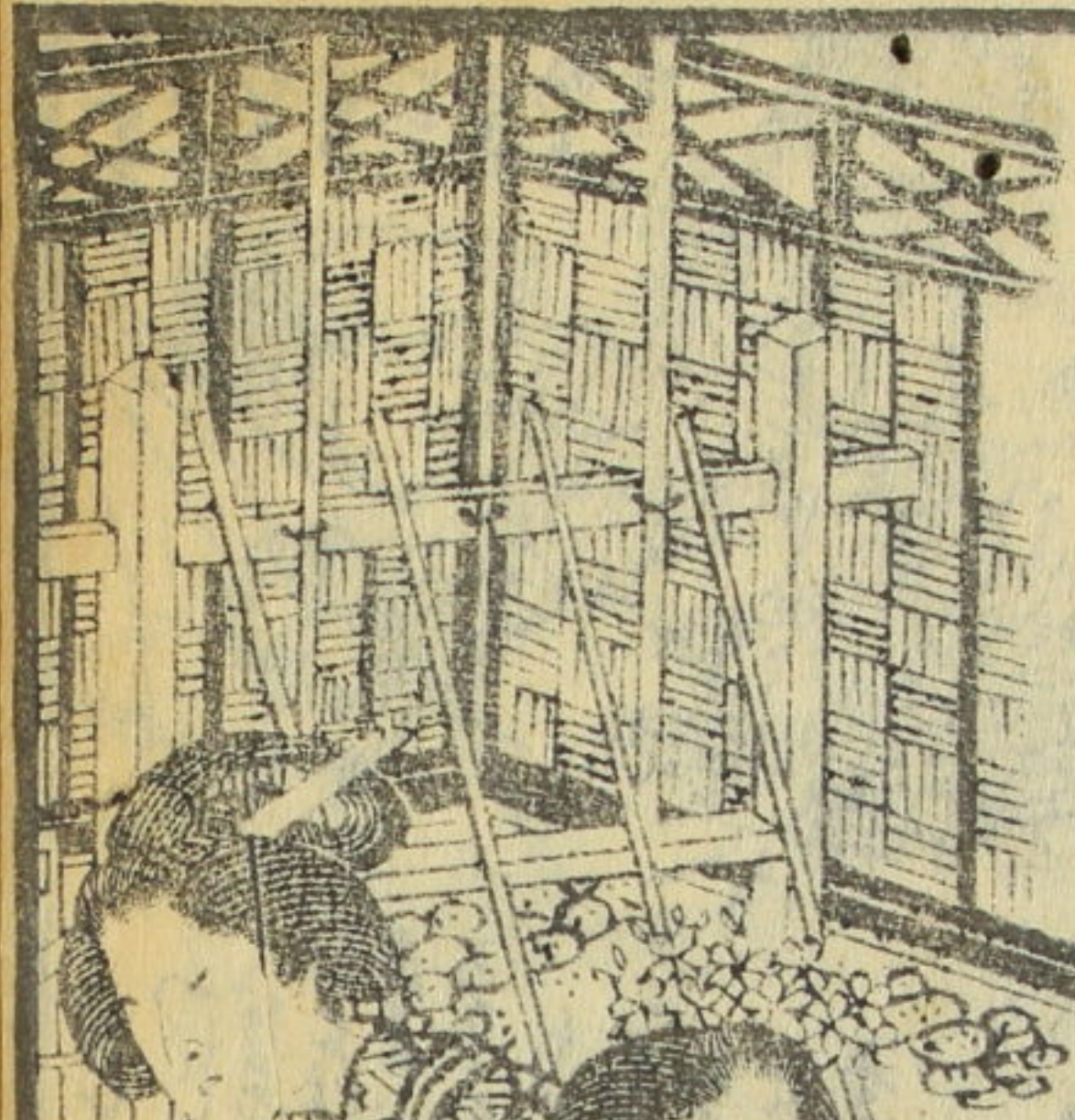




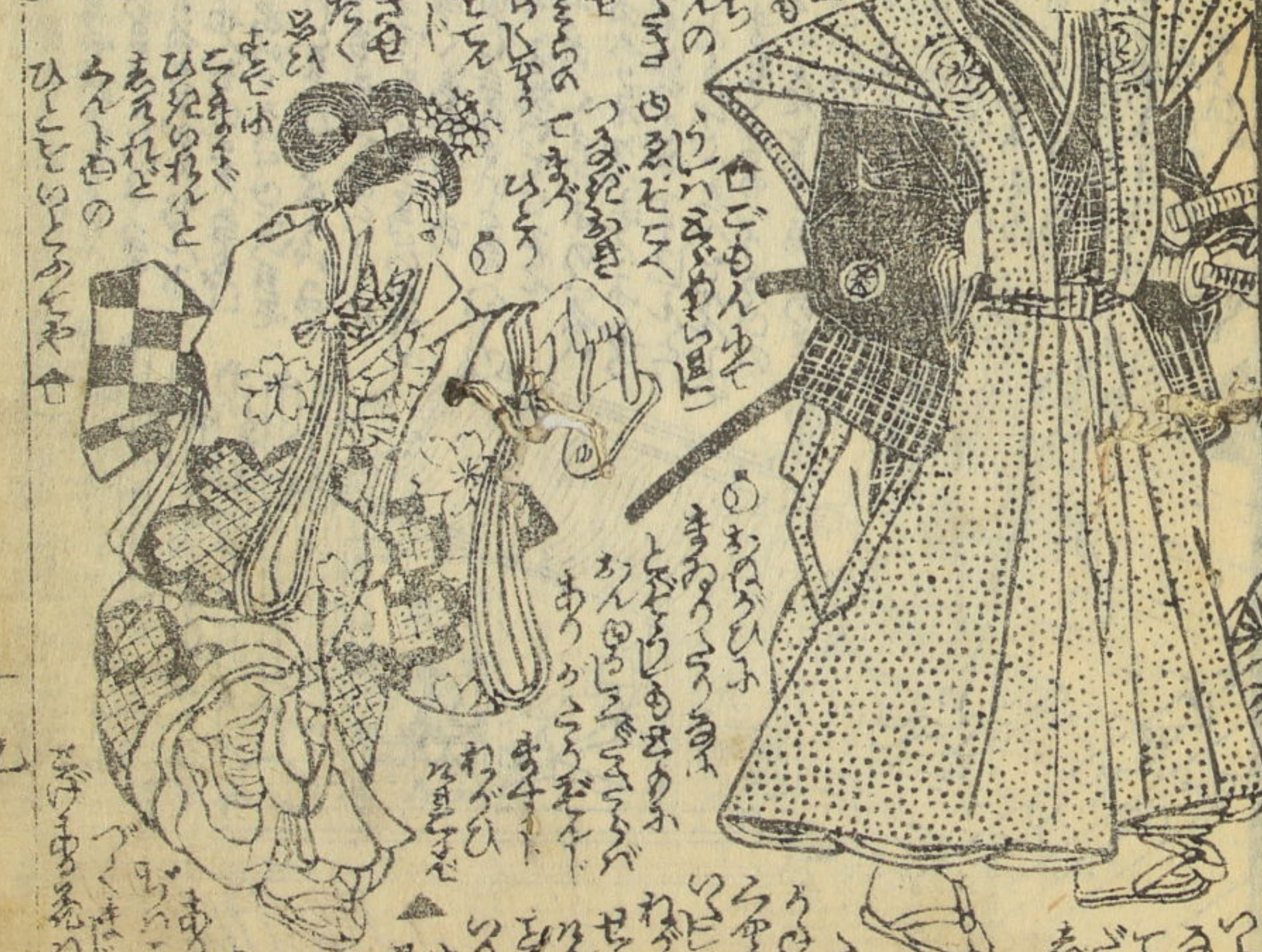
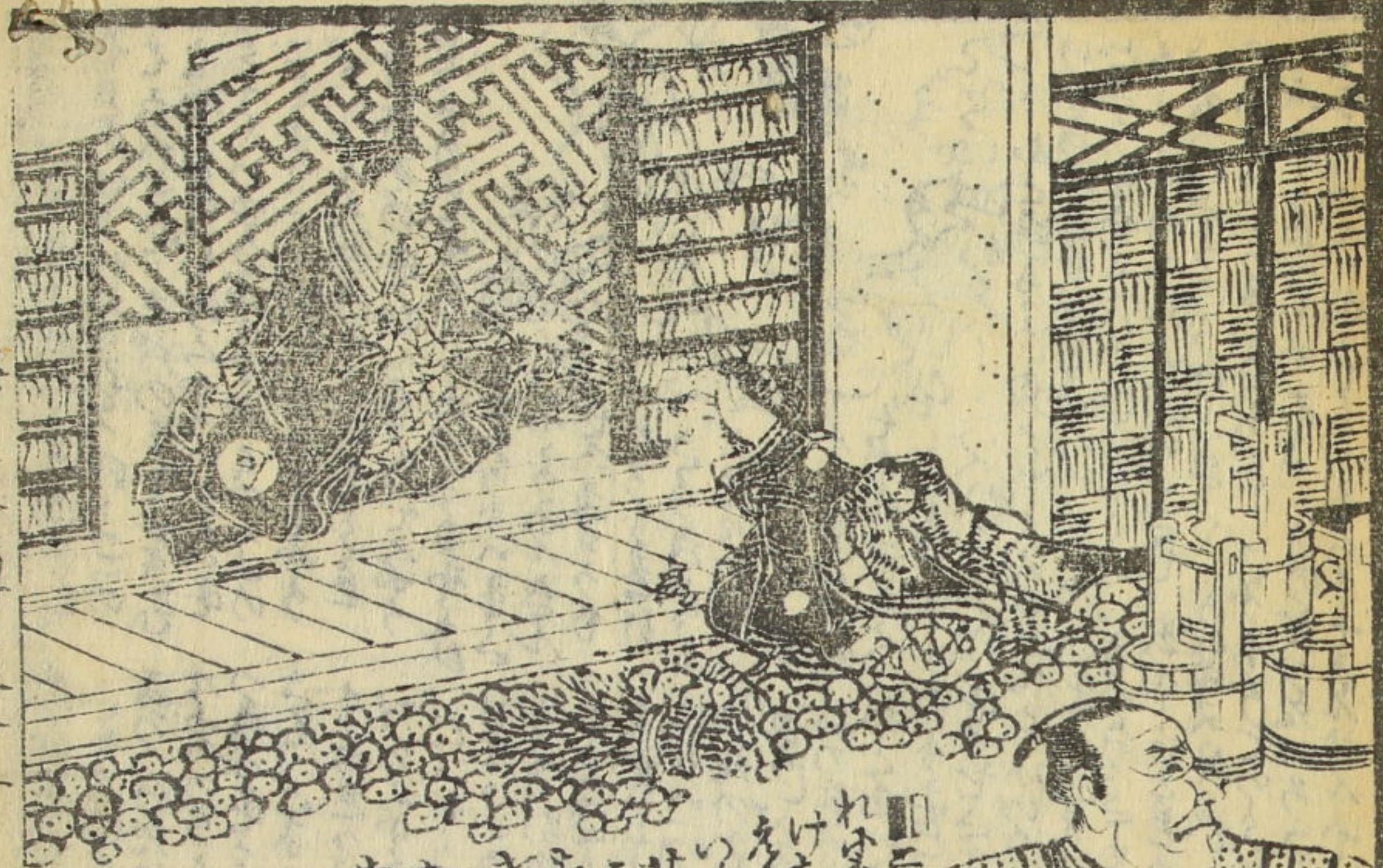
此の物語は、昔の事なり。其の初めは、  
ある朝、ある村に、ある男あり。其の  
名は、太郎と云ふ。其の父は、村の  
長と云ふ。其の母は、村の女と云ふ。  
其の父は、太郎を、村の長と云ふ。  
其の母は、太郎を、村の女と云ふ。  
其の父は、太郎を、村の長と云ふ。  
其の母は、太郎を、村の女と云ふ。



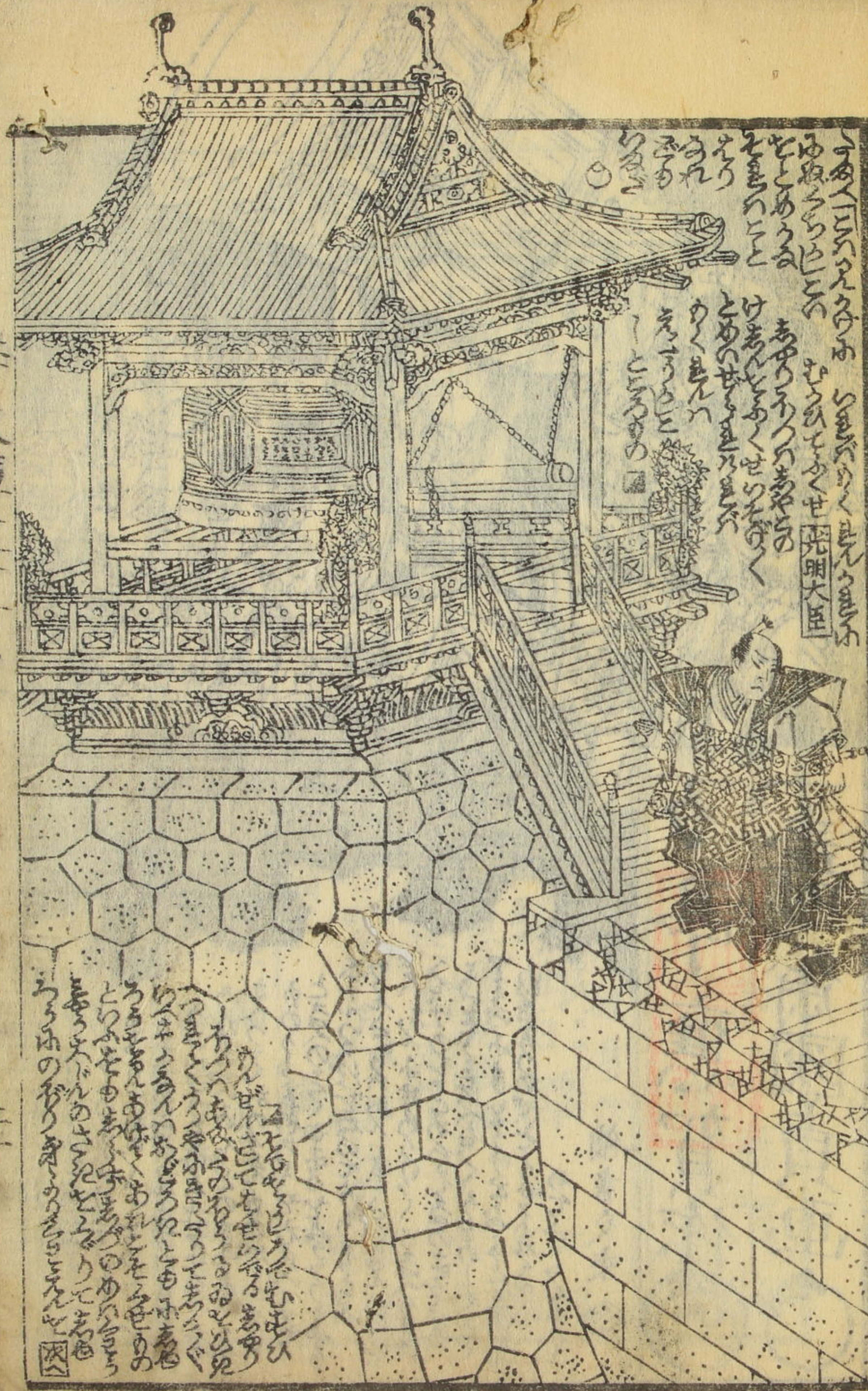
此の物語は、昔の事なり。其の初めは、  
ある朝、ある村に、ある男あり。其の  
名は、太郎と云ふ。其の父は、村の  
長と云ふ。其の母は、村の女と云ふ。  
其の父は、太郎を、村の長と云ふ。  
其の母は、太郎を、村の女と云ふ。



此の物語は、昔の事なり。其の初めは、  
ある朝、ある村に、ある男あり。其の  
名は、太郎と云ふ。其の父は、村の  
長と云ふ。其の母は、村の女と云ふ。  
其の父は、太郎を、村の長と云ふ。  
其の母は、太郎を、村の女と云ふ。



此の物語は、昔の事なり。其の初めは、  
ある朝、ある村に、ある男あり。其の  
名は、太郎と云ふ。其の父は、村の  
長と云ふ。其の母は、村の女と云ふ。  
其の父は、太郎を、村の長と云ふ。  
其の母は、太郎を、村の女と云ふ。



此の建物は...  
 石段...  
 瓦葺...  
 柱...  
 窓...  
 床...  
 地...

此の建物は...  
 石段...  
 瓦葺...  
 柱...  
 窓...  
 床...  
 地...



此の建物は...  
 石段...  
 瓦葺...  
 柱...  
 窓...  
 床...  
 地...

此の建物は...  
 石段...  
 瓦葺...  
 柱...  
 窓...  
 床...  
 地...

此の建物は...

文久四年甲子春新放目録

倭文庫

五十編 五十二編 万亭廬賀作  
五十三編 五十四編 一陽齋 豊國画

爲永春水作  
重井 菱 染 別 小 紋 八 編  
大 尾

柳亭種彦作  
新編 朝日譚 二 編  
一 惠齋 老 樂 画 三 編

柳亭種彦作  
花山 吹 百 人 女 郎 二 編  
初 編

十返舎一九作  
沙 子 み ぬ の 大 尾  
同 画

常磐石津懷中本

初編 二編 小本あり、言付  
三編 四編 あり、極とあるあり

重繪草紙本類問屋

人形町  
上州屋重藏板



万壽齋 加貝作  
一壽時 齋 貞画

備書交來  
めいしん  
この本は、文久四年甲子春、新放目録に載せられたものである。その内容は、柳亭種彦の「花山吹百人女郎」の初編と二編、十返舎一九の「沙子みぬの大尾」、新編朝日譚、一陽齋の「菱染別小紋」の八編と大尾、常磐石津懷中本の初編、二編、三編、四編、重繪草紙本類問屋の「上州屋重藏板」などである。また、万壽齋の「加貝作」の「一壽時齋貞画」も収録されている。この本は、文久四年甲子春、新放目録に掲載されたものである。





五拾巻